

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0866
 住 所 川崎市川崎区水江町5番地1
 氏 名 JFEプラリソース株式会社
 代表取締役社長 堀田 裕久 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEプラリソース株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町5番地1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	R	サービス業 (他に分類されないもの)
	中分類	88	廃棄物処理業
主たる事業 の内容	容器包装プラスチックの再商品化リサイクル		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		6,828 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	京浜事業部
		所在地	川崎市川崎区水江町5番地1
	電話番号		044-299-5193
	FAX番号		044-299-5328
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 http://www.jfe-plr.co.jp/environment/index.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 14,388 t-CO ₂ (調) 14,388	(実) 15,483 t-CO ₂ (調) 15,483	(実) 15,672 t-CO ₂ (調) 15,672	(実) 16,101 t-CO ₂ (調) 16,101	(実) 13,500 t-CO ₂
削減率		(実) -7.6 % (調) -7.6 %	(実) -8.9 % (調) -8.9 %	(実) -11.9 % (調) -11.9 %	(実) 6.2 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	原料ペール投入量		単位	t-CO ₂ /トン	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	0.2560	0.2584	0.2620	0.2615	0.2481
削減率		-0.9 %	-2.3 %	-2.1 %	3.1 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	水江原料化工場でNFボード製造工場向け廃プラペールの処理量が増加したこと、およびNFボード製造工場の処理量が増加したことにより、排出量トータルは増加、原単位も0.9%増加の結果となった。
第2年度	トータルの処理量は横ばいであったが、水江原料化工場で脱塩素工程が必須の材料リサイクル向け廃プラペールの処理量が増加したこと、およびNFボード製造工場の処理量が前年度より15%減少したため、処理能率の向上を図ったが、排出量トータルおよび原単位は増加の結果となった。
第3年度	水江原料化工場の処理量は横ばいだったが、材料リサイクルの比率が増えたこと、更にNFボード製造工場の処理量も増えたため、トータル排出量が増加した。NFボード製造工場ではボード成形時期を集中させ、エネルギーロスの低減を図った結果、原単位は前年度とほぼ同等の結果となった。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、 第 2 号、 第 4 号該 当事者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 ○主要設備の保安全管理 ○事務所等の管理 ○フォークリフト等の燃料削減
	第 1 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 本社と事業所を含めた全社環境管理組織を整備した。環境マネジメントシステム（エコアクション 21）を導入し、認証を取得。 ○主要設備の保安全管理 各工場の操業安定化、効率化によるエネルギー消費原単位の低減を図る為、主要設備の管理基準を作成し、それに従った管理を行った。 ○環境教育 E A 2 1 のシステムに従い、従業員に環境教育を実施し、目標を徹底した。
	第 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 全社環境管理組織を整備し、環境マネジメントシステム（E A 2 1）を導入、認証を取得している。中間審査を受け、適合の判定を得た。 ○主要設備の保安全管理 主要設備の管理基準として、破碎機・粉碎機の電流値・刃物摩耗、塩ビ選別機の電流値・循環水量、乾燥機の温度、ペレタイザの温度・圧力・能率、成型機の温度・吐出量・板厚を決め、それに従った管理を実施。 ○環境教育 E A 2 1 のガイドラインが次年度から 2 0 0 9 年度版になることを教育し、年度目標値の変更点を徹底した。
	第 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 全社環境管理組織を整備し、環境マネジメントシステム（E A 2 1）を導入、認証を取得している。更新審査を受け、適合の判定を得、認証期間を更新した。 ○主要設備の保安全管理 設定した主要設備の管理基準に従い、電流値・温度・圧力・能率等を適性に管理した。N F ボード成型機稼働期間を集中し、立ち上げ、立ち下げ時のエネルギーロスの低減を図った。 ○環境教育 E A 2 1 のガイドラインが 2 0 0 9 年度版になり、グリーン購入が項目として加わったこと、年度目標値の変更点他を教育した。
自動車等 (第 3 号該 当事者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○低CO₂川崎パイロットブランド'09に選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード」 年間のCO₂削減量目標： 5. 1千t-CO₂ ○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO₂削減 年間の廃プラ利用量目標： 18. 9千t CO₂削減量目標： 52. 4千t-CO₂
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○低CO₂川崎パイロットブランド'09に選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード」 年間のCO₂削減量： 3. 9千t-CO₂ ○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO₂削減 年間の廃プラ利用量： 18. 0千t CO₂削減量： 49. 9千t-CO₂
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○低CO₂川崎パイロットブランド'09に選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード」 年間のCO₂削減量： 2. 8千t-CO₂ ○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO₂削減 年間の廃プラ利用量： 18. 2千t CO₂削減量： 50. 4千t-CO₂
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○低CO₂川崎パイロットブランド'09に選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード」 年間のCO₂削減量： 2. 3千t-CO₂ ○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO₂削減 年間の廃プラ利用量： 18. 0千t CO₂削減量： 49. 9千t-CO₂

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物の減量化、有効利用の推進 ○川崎エコドライブ宣言に登録 ○川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）への参加
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物の有価燃料化を促進し、減量化を推進 ○川崎エコドライブ宣言に従い、関係貨物運送事業者全29社に環境配慮行動の要請を行った。 ○川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）へ参加、JFEスチールと協力し低CO₂川崎パイロットブランド選定事業により温室効果ガス排出量の削減を推進。
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物約3. 3千tを有価燃料化し、減量化を推進 ○川崎エコドライブ宣言に従い、前年同様29社に環境配慮行動の要請を行った。 ○川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）へ参加。浮島の「エコ暮らし未来館」の常設展示、パンフレット配備により弊社の環境関連活動をPR。 ○中原区民祭「エコカフェ」、川崎国際環境技術展2012に出展し、容器包装プラリサイクルの事業内容、環境への取り組みと製品を紹介。
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物約2. 3千tを有価燃料化し、減量化を推進 ○川崎エコドライブ宣言に従い、前年同様29社に環境配慮行動の要請を行った。 ○川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）へ参加。浮島の「エコ暮らし未来館」の常設展示、パンフレット配備により弊社の環境関連活動をPR。 ○幸区「子ども環境展」、川崎国際環境技術展2013、かわさきキングスカイフロント開所サイエンスフェスティバルに出展し、容器包装 プラリサイクルの事業内容、環境への取り組みと製品を紹介。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績 (排出係数反映)

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	15,123	t-CO ₂
(調)	15,123	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
京浜事業部	川崎市水江町 5 番地 1	8 8 1 6	ごみ処分業	15,123 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--